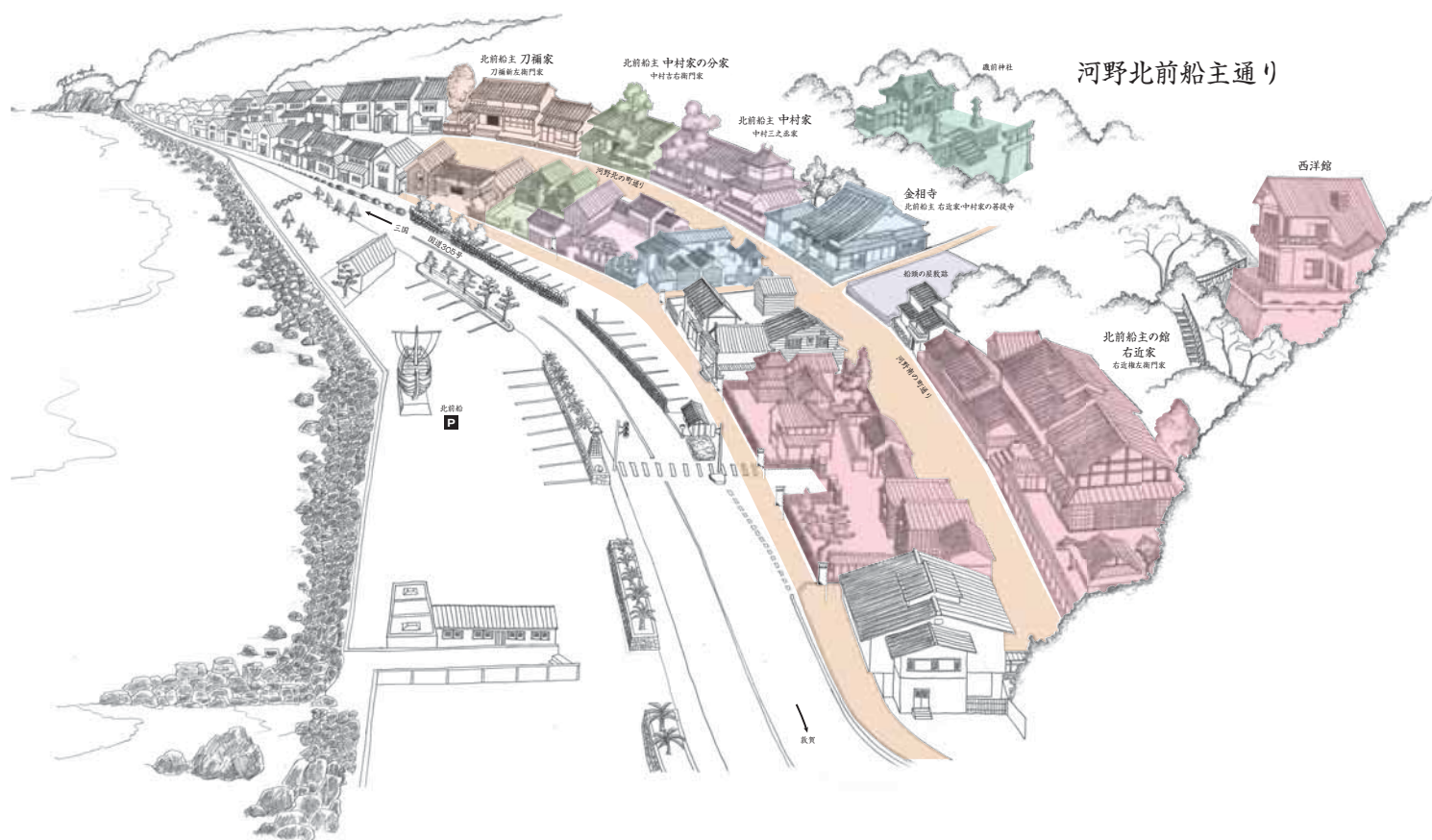


平成26年度 ふるさと創造プロジェクト

南越前町「北前船歴史空間再生プロジェクト」

計画書



平成27年1月

南越前町

目 次

I 現状と課題整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1. 南越前町の現状

2. 観光に係る状況

- (1) 交通インフラ及び町内の観光資源について
- (2) 歴史的背景と観光への活用
- (3) 課題整理

II 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

1. プロジェクトの目的

2. プロジェクトの概要

3. 事業の内容

- (1) 歴史空間を感じさせる景観整備
- (2) 気軽に利用できるインフォメーション施設兼休憩所の整備
- (3) 全国への情報発信やおもてなしの充実
- (4) 河野—ホノケ山トンネル—南条—今庄を結ぶ観光ルートづくり

4. 実施エリア

5. 計画策定の進め方

- (1) 計画策定委員会の開催
- (2) ワーキンググループの開催

6. 計画策定の概要

- (1) 委員会の名称
- (2) スケジュールおよび協議内容

III 具体的な取り組み、方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

1. 歴史空間を感じさせる景観整備

- (1) 北前船主通りの道路整備について
- (2) 国道側通りの景観整備について
- (3) 歴史空間存続に向けてのエリア内の修復整備について
- (4) 旧特産品販売所の活用について

2. 気軽に利用できる案内施設兼休憩所の整備

- (1) 右近家離れの活用の方向性について
- (2) 改修の方向性について
- (3) 具体的な離れの機能とその運営について

3. 全国への情報発信やおもてなしの充実

- (1) 全国の北前船研究者や各寄港地の地域づくり人材が集まる「北前船の集い」(仮称)を開催
- (2) 北前船の歴史や、館・蔵などの建造物等の説明ができる観光ガイドの育成
- (3) 「北前船主通り」の散策が楽しめるガイドマップ及びビデオ等のPR商品の開発、作成

4. 河野－ホノケ山トンネル－南条－今庄を結ぶ観光ルートづくり

- (1) 北前船主通りや今庄宿など新たな観光資源をPRするポータルサイトの作成
- (2) 南条SIC、今庄ICからの案内について、北前船の統一したイメージでの誘導サインの設置
- (3) 旅行会社とタイアップした北前船主通り、今庄宿・妙泰寺ツアーの実施
- (4) 南条SAでプロモーションビデオを放映するなどNEXCO中日本等との連携や、各種媒体を利用した情報発信

IV 資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

1. 南越前町観光マップ

2. 北前船主通りの紹介

3. 計画策定委員会構成メンバー

4. 計画策定委員会、グループワーキングの風景

5. 完成予想図

I 現状と課題整理

1. 南越前町の現状

福井県南越前町は、平成17年1月1日、地域形態、特色の異なる3町村（南条町、今庄町、河野村）が合併し誕生しました。主に製造などの工業系が主となる旧南条町、宿場町の名残から商業系の多い旧今庄町、「越前海岸」、「越前がに」ブランドに支えられた観光業がさかんな旧河野村から成り、人口は合併時の平成17年10月の国勢調査では、12,274人でしたが、平成24年は11,710人（住民基本台帳による）と減少傾向にあります。

基幹産業である第1次産業は、農業では稲作を中心に、花はす、そば、梅、水仙が栽培されています。漁業では、定置網漁業が中心ですが、漁獲量の不安定さに加え、価格が市場の影響を受けやすいなどの問題を抱えています。また経営基盤の脆弱な中小企業を中心とした第2次産業、小売業がほとんどで商業集積度が低い第3次産業のいずれも総じて厳しい経済状況におかれ、人口流出に加え、労働者の高齢化・後継者不足によって減退傾向にあるのが実情です。中でも第1次産業においてこの傾向が顕著に表れています。

長引く景気低迷、少子高齢化、社会、産業構造やライフスタイルの変化など、環境の変化は、南越前町においても多くの問題に直面しており、喫緊に取り組むべき課題として、南越前町固有の地域資源をいかした地域振興・活性化が求められています。

「北前船歴史空間再生プロジェクト」では、「観光」を通じた地域振興・地域活性について、地域の住民が主体となった持続可能な方策について計画を策定し、その実現をはかるものです。事業を進めるにあたっては、「観光資源は、地域の宝である」という意識のもと、地域に根付いた地域の資源を大事にする、誇りに思うことから始まります。地域固有の伝統文化、自然環境、先人から守られ受け継がれてきた観光資源をいかすことで、地域に愛され、地域一体となった息の長い取り組みを継続します。



□人口推移

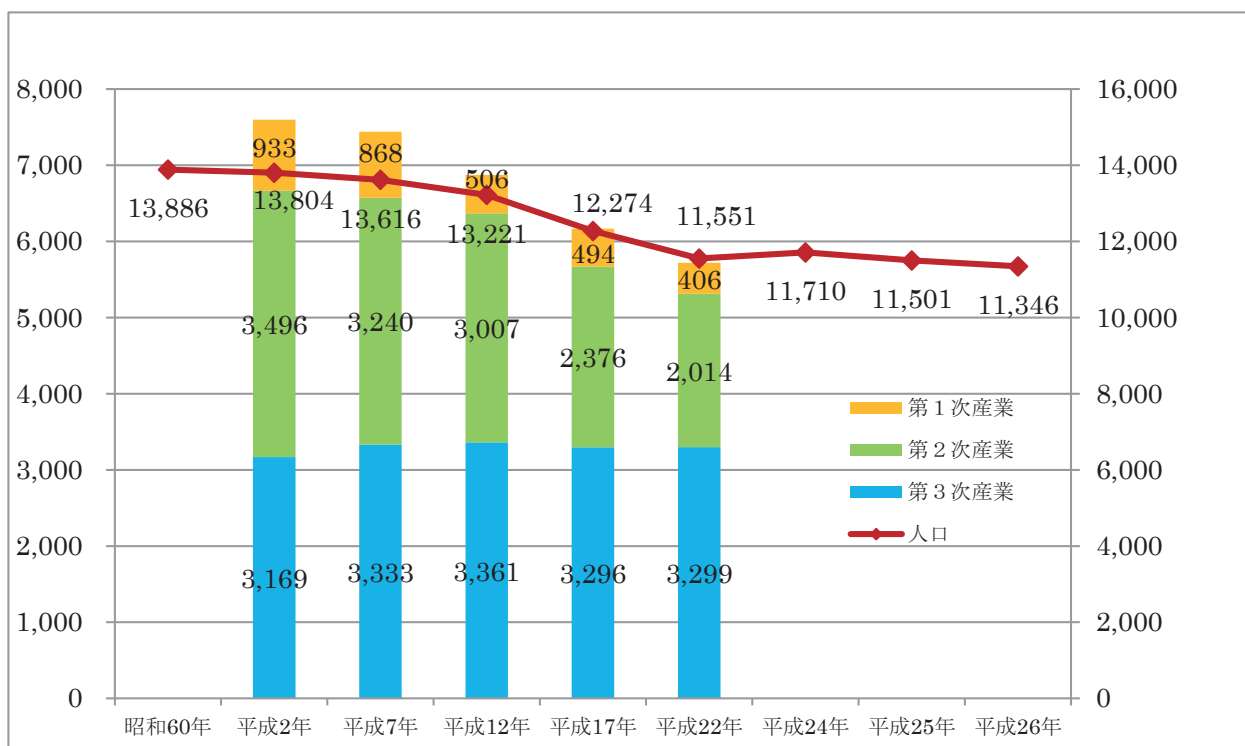
(単位:人)

区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成24年	平成25年	平成26年
人口	13,886	13,804	13,616	13,221	12,274	11,551	11,710	11,501	11,346
男	6,695	6,628	6,555	6,437	5,850	5,501	5,659	5,563	5,486
女	7,191	7,176	7,061	6,784	6,424	6,050	6,051	5,938	5,860
世帯	3,450	3,484	3,634	3,744	3,542	3,483	3,516	3,501	3,492

資料:各年10月1日国勢調査、平成24～26年は4月1日現在の住民基本台帳による

□人口推移、産業構造別推移（南越前町全域）

(単位:人)



資料:各年10月1日国勢調査、平成24年～26年は4月1日現在の住民基本台帳による

2. 観光に係る状況

(1) 交通インフラ及び町内の観光資源について

交通インフラについては、鉄道はＪＲ北陸本線が南北に縦走し、南条、湯尾、今庄、南今庄の４駅を有するものの、特急列車停車駅がないことは観光誘客面でのネックの１つに挙げられます。

次に道路交通について、北陸自動車道をはじめ、国道８号、３０５号、３６５号といった北陸と関西、中京を結ぶ道路が町の南北を走り、北陸自動車道南条ＳＩＣ、今庄ＩＣに加え、県内唯一のサービスエリアである南条ＳＡが設置されるなど、比較的優位な環境が整備されていると言えます。しかしこの優位さゆえ、観光客の通過、素通りというマイナスとなって表れている一面も否定できません。

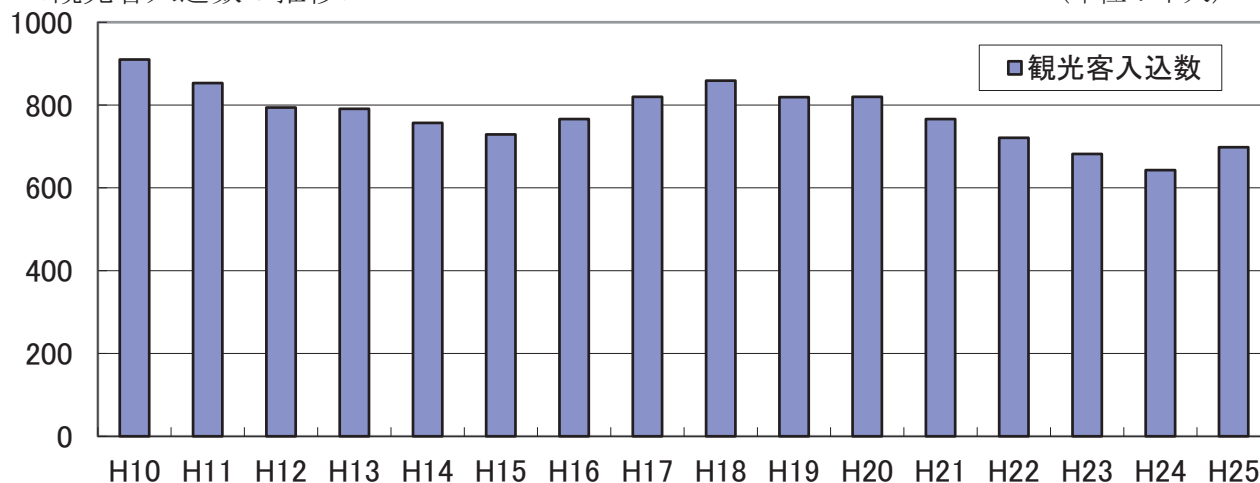
各地区の観光資源についてみると、河野海岸線一帯が、「越前加賀海岸国定公園」に指定され、風光明媚な「越前海岸」と「越前がに」は、ブランド力をもつ地域の重要な観光資源としてあげられます。今庄地区には、山間部の歴史情緒あふれる宿場町である今庄宿や板取宿、また山間部は県下有数の多雪地帯で、今庄３６５スキー場もあり、南条地区では、「花はす公園」が整備されています。

海・山・里と特色の違う３地区の合併の結果、それぞれの地区が個性ある観光資源を有しているものの、残念ながら福井県全体でみたとき、観光客に訴求力をもち知名度のある観光地とは言えないのが実情です。

【参考】

<観光客入込数の推移>

(単位：千人)



資料：福井県観光客数動態推計表より抜粋

<宿泊者数・河野宿泊施設数>

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
宿泊者数 (町内全域)	33,424	37,606	27,604	29,785	31,272	39,672	34,242	32,897	30,301
宿泊施設数 (河野地区)		33	33	30	28	26	22	21	21

（２）歴史的背景と観光への活用

観光を通じた地域活性を考える上で、次に地域の観光資源とその歴史的背景について整理します。

平安時代に敦賀から木ノ芽峠を越える「北陸道」が開かれ、近世には栃ノ木峠を越える「北国街道」が整備されるなど、京の都と北陸を結ぶ陸路の玄関口・交通の要衝として栄え、今庄には本陣が置かれるなど宿場町としても賑わいました。

また海路では、江戸時代中期から明治にかけて蝦夷地（北海道）をはじめとした日本海諸港と瀬戸内・大阪を西廻り航路で往来した「北前船」によって、海運業が栄え、河野浦では、日本を代表する北前船主である右近家・中村家とその居を構えました。

このように南越前町は陸路、海路ともに交通の「要」として発展してきた歴史をもち、それに関わる多くの観光資源をもつことから、これを南越前町固有の地域資源と位置づけ、観光面でもこのような歴史的な背景やストーリー性をベースに構築していくことが望ましいと考えます。

すでに今庄では、かつての宿場町の観光資源を活用した「今庄宿プロジェクト」が平成２６年度より実施に移され、ブラッシュアップ、受け入れ態勢の整備が進められております。河野では、平成２年５月「北前船主の館右近家」が資料館として開館しています。両地区共に今後の南越前町の観光による地域活性化には欠くことのできない核となる観光資源であり、そのブラッシュアップによって町全体を牽引することが求められます。

（３）課題整理

南越前町は、河野地区の「越前海岸」のブランド力、南条地区の全国トップシェアを誇る花はす、今庄地区の今庄宿場町をはじめとした観光資源、および「越前がに」に代表される海産品や「今庄そば」など食の魅力に恵まれる一方、旧町村ごとに、「そばまつり（春）」、「はすまつり（夏）」、「水仙まつり（荒波フェスタ）（冬）」などの催しに大きく依存している現状です。したがって観光客を呼び込む求心力は、催し期間（期間限定・単発）の瞬間最大風速でしかなく、年間を通して持続力に欠けている点が最大の課題と言えます。

道路インフラについても比較的利便性が高く、また県内唯一のサービスエリアである南条サービスエリアを有するものの、３地区間の相互連携を促す環境になく、町内の回遊を促すような地域の観光資源の情報発信も乏しく、観光客にとっては他の目的地へ至る「通過点」でしかない状況におかれ、町内の回遊型観光による滞在時間の拡大を実現することが大きな課題となっています。

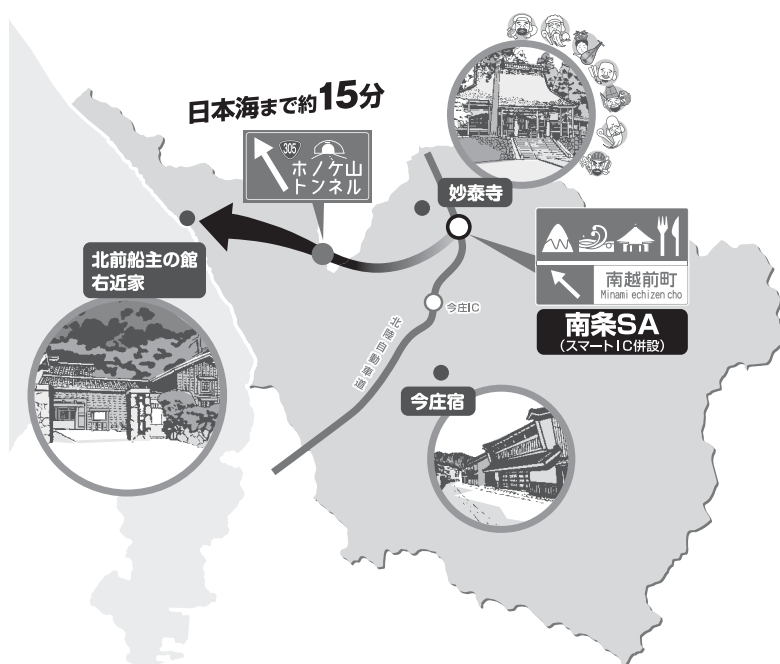
平成２５年１１月「ホノケ山トンネル」の開通によって、南条サービスエリアから越前海岸（河野地区）へ他市町を経由せず直通が可能となり、念願であった海岸部と山間部の文字通りの一体化が実現しました。これによって町内の円滑な東西自

動車移動の障害となっていた問題が解消されるとともに、町外からの観光誘客の促進、滞留時間の拡大の面において、効果的な環境が整ってきました。また本年7月20日には舞鶴若狭自動車道が全線開通したことで、観光客の利便性も高まり、新たな広域観光の可能性やマーケット拡大の可能性も広がりました。

課題を克服するには、まずホノケ山トンネルの開通を契機に、日本海を眺望できる「越前海岸」から、山間の歴史情緒あふれる「今庄宿場町」の間に観光ルートを整備することが急務となります。道路インフラが整備され、利便性が高まったことで、次は観光客が行きたくなる、滞在したくなるような着地整備が求められます。歴史文化遺産、観光施設、温泉施設、地域の魅力ある「食」、「学び」などの体験といった、点在する個々の観光資源を、通年型で観光客の多様なニーズに応える受け皿構築などの環境を整備し、それらを有機的に結合することにより、町内の回遊型観光による滞留時間の拡大、宿泊者の増大をはかることが、今まさに取り組むべきテーマであると位置づけます。

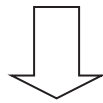
知名度とブランド力のある「越前海岸」を有する河野地区の「北前船主の館 右近家」を観光まちづくりの中心にすえ、広域にわたる越前海岸の中でも「右近家とその周辺一帯」を、年間通じて楽しめる地域の観光拠点となるようハード、ソフト両面で事業計画を具体化します。その実現によって周辺地域および周辺産業を牽引し、ホノケ山トンネルを利用した町内回遊型観光へとつなげていくことを目指します。

これまでの「期間限定型観光」から「通年型観光」へ、また南越前町にとっての比較優位条件である利便性のある道路交通を使って、「通過点」から「町内回遊・滞在」へと脱却をはかることが、観光を通じた町おこし・地域経済活性への重要な第一歩となるという認識のもと、次章以降で事業の具体的方策について示してまいります。



1. 南越前町の観光における現状と課題整理

- ・ 道路交通の利便性は高いが、現状では観光客の通過点に過ぎない
- ・ 特定の期間に限定された集客構造
- ・ 「越前海岸」のブランド力は高いが、広域にわたるため南越前町部分の河野地区が埋没（現状では越前海岸の他地域に対し、特性、優位性がない）



□ブランド力のある「越前海岸」を活用した「河野ならではの」の実現
…越前海岸近隣地域との差別化・独自性確立 ⇒ 集客力の強化
北陸自動車道から越前海岸へは最短

2. 具体的方策の検討

賑わいを創出する

- ・ 「北前船主の館 右近家」と「河野北前船主通り」を核とした展開
…新たな観光拠点・ランドマークとして受け入れ態勢の整備
- ・ 既存のシニア層旅行者の一層の拡大と誘客の裾野を拡げるため親子旅行（小学校低学年以下の子供）の新たな拡大
⇒ 南越前町全体を牽引（町内への波及効果）

3. 目指すべき方向

- ・ 通年型観光への環境整備と、それによる町内での滞在時間拡大、宿泊者拡大
- ・ 町内にとどまらず、近隣市町と広域的に取り組む

Ⅱ 計画策定の趣旨

1. プロジェクトの目的

「北前船主の館右近家」を中心とした200mの通り沿いに並ぶ中村家、刀禰家の邸宅や蔵などの周辺一帯を観光拠点として位置づけ、一体的にハード、ソフト両面で整備を進めることで、「歴史空間」として再生させ、魅力ある新たな観光まちづくりを展開し、観光を通じた地域活性化を推進することを目的とします。

2. プロジェクトの概要

観光を通じた地域活性化の実現へ以下の項目について具体化へ向け計画を策定し、推進してまいります。

- 往時の繁栄ぶりを偲ばせる建物や蔵が密集する「北前船主の館右近家」周辺において、北前船の歴史を核とした観光まちづくりを展開します。
- 両側に邸宅や蔵が立ち並ぶ旧道を「河野北前船主通り」（以下「北前船主通り」）と位置づけ、歴史的空間を感じさせる景観整備を実施します。
- 北前船の歴史や文化を紹介する案内施設兼休憩所を整備し観光客へのおもてなしを充実させるとともに、ガイド等の配置により散策を楽しめるエリアを目指します。

3. 事業の内容

（1）歴史空間を感じさせる景観整備

□事業目的・ねらい

「北前船主通り」一帯を整備することにより、観光客がより散策しやすく、歴史的な空間を体感できるような場を目指します。

□事業期間 平成26年、27年度

□期待できる効果

エリア全体の景観向上により、観光地としての歴史空間が確立されます。

□事業内容

- ・ 右近家、中村家及び刀禰家にかけての「北前船主通り」を、一般観光客が散策しやすい道路に整備
- ・ 北前船主通りの景観整備
- ・ 北前船主の館群の外側に面する国道側通りの路面や植栽等の景観を一体的に整備
- ・ 歴史空間存続に向けてのエリア内の修復整備

(2) 気軽に利用できるインフォメーション施設兼休憩所の整備

□事業目的・ねらい

「北前船主通り」の入り口部分にある右近家離れを、通り一帯エリアのインフォメーション施設に改修し、海岸域における対外的なフロントとしての機能を持たせます。

□事業期間 平成26年、27年度

□期待できる効果

観光客への総合窓口となり、現地ガイド等を配置することで、観光客の誘客を促します。

□事業内容

- ・ 観光客が気軽に利用でき北前船の歴史や文化が紹介できるよう、「北前船主通り」の入り口部分にある「右近家離れ」、その庭、蔵を一体的に整備し、インフォメーション施設兼休憩所として活用
- ・ 将来的にはガイド等の配置や地元民宿等による食事提供及び定期的な企画展を開催

(3) 全国への情報発信やおもてなしの充実

□事業目的・ねらい

「北前船主通り」の魅力を全国に発信し、来訪者に対しては人のぬくもりが感じとられるような「おもてなし」を提供します。

□事業期間 平成26年、27年度

□期待できる効果

都市部への配布などにより、観光客への事前学習効果が期待できるうえ、現地で歩きながら使えることで理解の促進に資することができます。

□事業内容

- ・ 全国の北前船研究者や各寄港地の地域づくり人材が集まる北前船の集いを開催
- ・ 北前船の歴史や、館・蔵などの建造物等の説明ができる観光ガイドの育成
- ・ 「北前船主通り」の散策が楽しめるガイドマップ及びビデオ等のPR商品の開発、作成

(4) 河野—ホノケ山トンネル—南条—今庄を結ぶ観光ルートづくり

□事業目的・ねらい

町内各観光スポットとの連携を促し、一体的な誘客戦略を展開していきます。

□事業期間 平成26年、27年度

□期待できる効果

効果的な誘導を行うことで観光客の町内滞留時間の増加が期待でき、町内での宿泊等を促進させます。

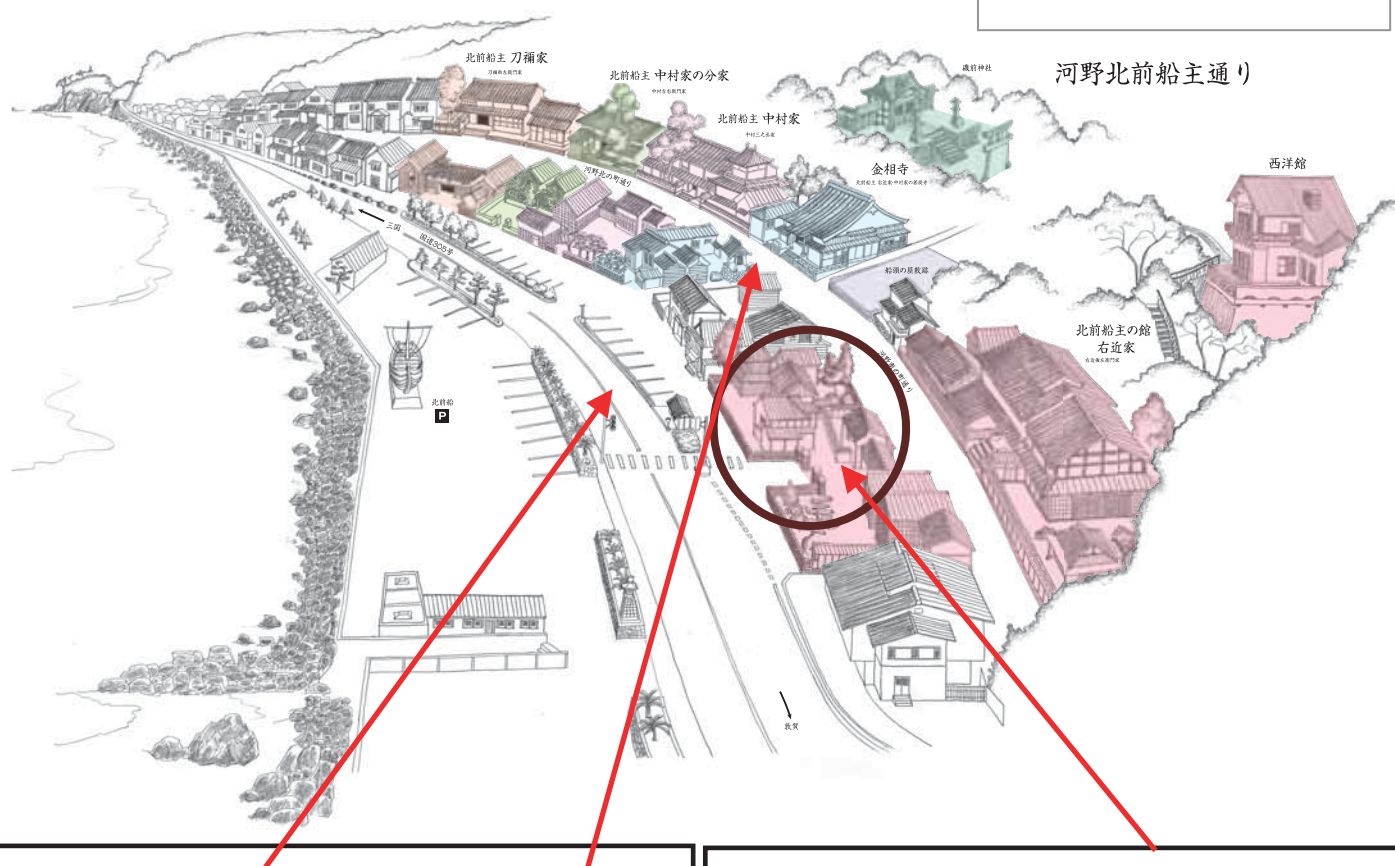
□事業内容

- ・ 北前船主通りや今庄宿など新たな観光資源をPRするポータルサイトの作成
- ・ 南条SIC、今庄ICからの案内について、北前船の統一したイメージでの誘導サインの設置
- ・ 旅行会社とタイアップした北前船主通り・今庄宿散策ツアーの実施
- ・ 南条SA及び各SAでプロモーションビデオを放映するなどNEXCO中日本等との連携や、各種媒体を利用した情報発信

4. 実施エリア



「北前船主の館」文献調査事業



国道側通り



北前船主通り

歴史空間を感じさせる景観整備



右近家離れ



離れの庭

案内施設兼休憩所の整備

5. 計画策定の進め方

(1) 計画策定委員会の開催

本事業を進めるにあたり、計画策定委員会を立ち上げて、効率的かつ広域的な意見の集約を行い、また専門家の豊富な知識を活用し、事業の円滑な運営を図る体制を整え、計画策定を行います。

委員の選定にあたっては、地域の有識者や観光協会、民間事業者など幅広い委員構成とし、また20代、30代の委員も選定することで、多様な意見や視点を確保します。観光だけでなく、建築、景観整備、伝統文化、食等に係る幅広いテーマについて検討できる体制を整えます。

(2) ワーキンググループの開催

効率的な計画策定にあたって、以下の3つのテーマにあわせたテーマ別検討グループ（分科会）を設置し、検証を進め、全体会議において適時、報告を行います。

第1グループ「景観整備」（主にハード面）

◇テーマ：「景観整備」

- ①景観整備
- ②右近家離れの活用
- ③企画展の実施
- ④河野北前船主通りの概要解説コーナー
- ⑤誘導サインの製作

第2グループ「おもてなし体制」（主にソフト面）

◇テーマ：「観光地」

- ①北前船の集い（仮称）の開催
- ②北前船観光ガイドの養成
- ③北前船関連土産の商品開発
- ④体験商品の開発

第3グループ「おもてなし体制」（主にソフト面）

◇テーマ：「食」関連

- ①右近家離れ、西洋館の活用（ソフト面）
- ②河野北前御膳（仮称）メニューの開発
- ③旅行会社とタイアップしたツアーの実施
- ④旧特産品販売所の活用方法

6. 計画策定の概要

(1) 委員会の名称

「北前船歴史空間再生プロジェクト」計画策定委員会

(2) スケジュールおよび協議内容

回数	時期	協議内容等
準備会	平成 25 年 12 月 26 日	プロジェクトの趣旨及び方向性説明 計画策定委員会内の組織編成について 北前船の歴史及び現状把握 事業内容検討
第 1 回	平成 26 年 1 月 31 日	事業内容検討
第 2 回	2 月 27 日	事業の詳細内容の討議
第 3 回	3 月 19 日	事業の詳細内容の討議
第 4 回	4 月 24 日	事業の詳細内容の討議
第 5 回	5 月 29 日	事業の詳細内容の討議
第 6 回	6 月 27 日	事業の詳細内容の討議
第 7 回	7 月 31 日	事業の詳細内容の討議
第 8 回	9 月 29 日	計画内容素案とりまとめ調整
第 9 回	10 月 30 日	計画内容とりまとめ調整、計画書作成
第 10 回	12 月 11 日	計画内容とりまとめ調整、計画書作成

Ⅲ 具体的な取り組み、方策

1. 歴史空間を感じさせる景観整備

□事業目的・ねらい

「北前船主通り」一帯を整備することにより、観光客がより散策しやすく、歴史的空間を体感できるような場を目指します。

(1) 北前船主通りの道路整備について

右近家、中村家及び刀禰家にかけての「北前船主通り」を一般観光客が散策しやすくするため、舗装・排水工事を行います。

「北前船主通り」は現状、未舗装のため、特に雨天時には水はけも悪く、観光客にとって非常に足元が悪く、散策に適さない状態にあります。そこで今回、舗装を行い、透水性の高い舗装仕上げ材を使用することで、歩きやすさに加えて、雨天時の水はけの良さも実現することで、散策しやすい環境を整えます。

(2) 国道側通りの景観整備について

通りの眺めを良くするため、景観に配慮した塗装や見せ方などを検討します。また石垣の整備や常夜灯の移設についても検討を行い、環境を整備します。

(3) 歴史空間存続に向けてのエリア内の修復整備と活用について

西洋館を含めた右近家周辺一帯の整備を実施します。現状、足元の悪い西洋館及び展望台へつながる歩道の整備や周辺の伐採など、観光客が散策しやすいよう環境整備を進めます。

また、西洋館については、カフェやゲストハウス、セミナー会場等としての活用を検討してまいります。

(4) 旧特産品販売所の活用について

右近家前の駐車場に面した海に近い場所という好立地条件にありながら、公衆トイレに隣接し、また店舗内から海が見えない等の悪条件もあって、現状では空き店舗となっています。

この機会に、北前船関連エリア一帯として統一性をもって整備する中で、右近家離れの機能を補完するものとして、無人案内所や体験コーナーなど利用方法についても検証を進めます。

2. 気軽に利用できる案内施設兼休憩所の整備

□事業目的・ねらい

「北前船主通り」の入り口部分にある「右近家離れ」を、北前船のインフォメーション施設へと改修し、海岸域における対外的な観光フロントとしての機能を持たせることを目的とします。

(1) 右近家離れの活用の方角性について

「インフォメーションセンター兼付加価値のある休憩所」とします。右近家離れは現在、使われていない建物ですが、「北前船主通り」の入り口部分に位置し、駐車場から右近家にいたる動線上にあることから、改修を施し有効に活用することで、観光客の足をとめ、地域を活性化させる原動力となる役割を担うべくその具体化を検証します。

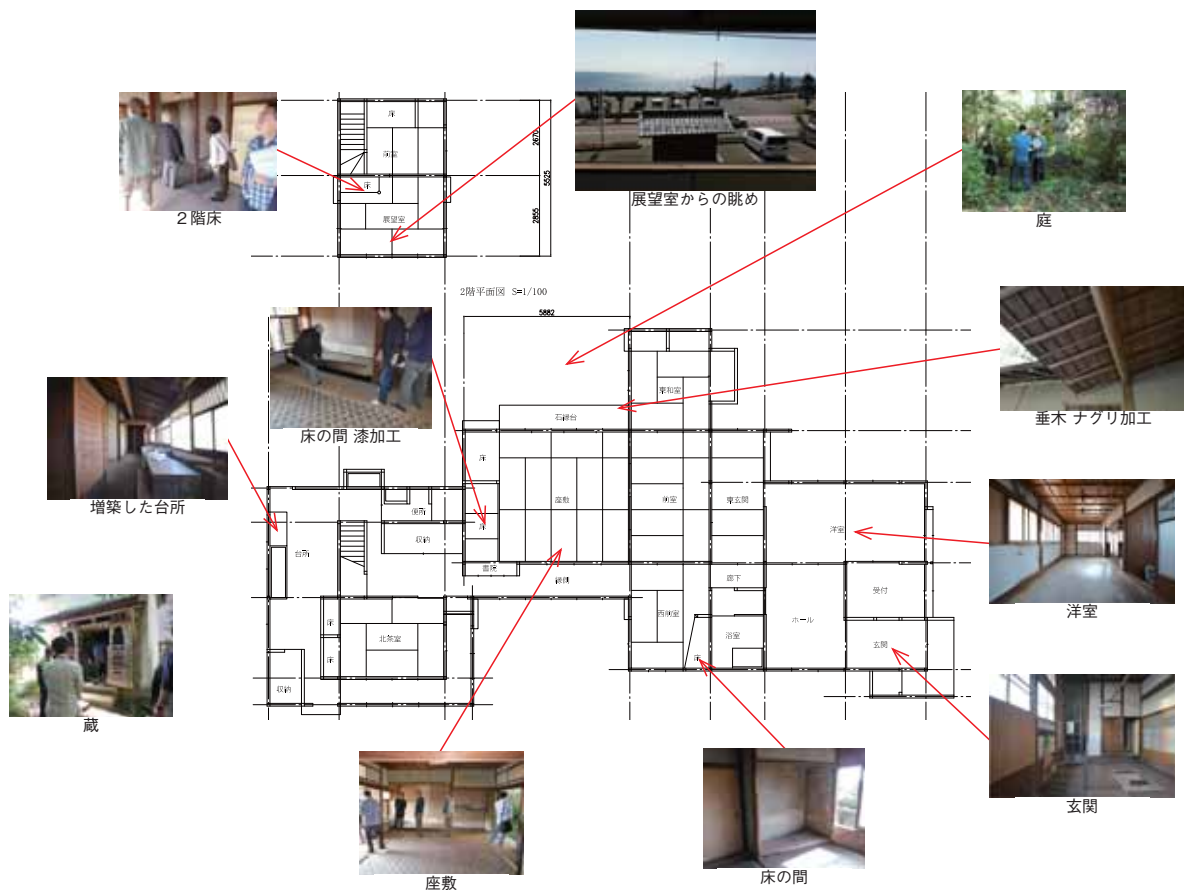
現状でも国道305号を通行する自動車利用の観光客の多くの方がすでに整備されている無料の駐車場、トイレを利用されています。せつかく足をとめた観光客をそのまま素通りさせるのではなく、右近家離れの歴史的風情を残した建物を活用した、気軽に立ち寄れる「インフォメーションセンター兼付加価値のある休憩所」を整備することで、まず観光客を引き込みます。

整備された旬の観光情報を提供し、右近家の入館への誘導や、離れ施設内での喫茶休憩、ガイド整備による北前船主通り一帯の散策など、地域を満喫できるおもてなしメニューを提供する拠点として整備を進めます。

さらにホノケ山トンネルを活用した南越前町の他の観光スポットへの周遊型観光への誘導も見据え、南越前町全域での滞留時間拡大へのきっかけとなるような役割を果たせることも目指します。

(2) 改修の方角性について

公募型プロポーザル方式にて測量業者選定し、5月17日離れの視察を実施した結果、改修の方角性については以下の通りとします。



- ・建物全体の作りが良く、また材料等も良いことから、原型を残した修復、改修を施し、建物を残すこととします。
- ・観光客が入りやすいように建物正面に入口を設置し、多目的室（土間）を設けます。
- ・多目的室内に観光協会の事務室を兼ねた案内所を設置します。またお土産などを販売するスペースも備えます。
- ・バリアフリー化については、入り口から多目的室（土間）までとし、残すべき和風建築部分を残す形とします。
- ・和室部分については、休憩所と食提供の場として活用します。
- ・1階の増築部分（現在の台所部分）は、傷みも激しいことから解体します。
- ・1階北側部分に団体客にも対応できるような規模の厨房設備を整備します。
- ・階段については、昇降しやすいように緩やかなものに改築します。
- ・蔵の外壁、石積塀垣の修復、庭の修景工事を行います。庭については、大木化した樹木を伐採し、当初建築時における庭の面影を復元する景観に配慮します。

- ・トイレを改修します。

※公募型プロポーザルで決定した設計業者からの提案に計画策定委員会での検討をふまえながら改修を進めていきます。

□検討にあたって視察の実施（平成26年6月4日）

○蔵六園（石川県加賀市）

- ・北前船の里資料館（本体）と蔵六園の関係性が、南越前町での本体（右近家）と離れの関係が類似、規模感の類似性
- ・北前船の里資料館と蔵六園間の歩道の整備状況
- ・蔵六園の運営、展示内容、ガイド状況、関連土産品販売



○奥井海生堂（敦賀市）

- ・北海道の利尻、礼文の昆布を「蔵囲い」（熟成しまろやかになる）
- ・その発祥は北前船以前で東京に出店するなど他にない特色とブランド力をもつ
- ・地酒販売や、越前和紙の活用（商品包装用の箱）にも特色



（３）具体的な離れの機能とその運営について

改修後は、地域を代表する「インフォメーションセンター兼付加価値のある休憩所」として、観光案内・情報発信機能に加え、利用する観光客にとって付加価値を提供するものとして以下のおもてなしメニューについて具体化を進めます。

- ①案内所機能（インフォメーションセンター機能）
- ②休憩所機能
- ③食事の提供（喫茶・軽食）
- ④体験コーナー
- ⑤土産販売
- ⑥企画展示等

北前船、北前船主通りに関る概要解説コーナーの設置に加え、河野地区だけに限らず、今庄、南条地区を含めた南越前町全域の情報発信の拠点となるようインフォメーションセンターとしての機能を充実させます。観光客の足をとめ、右近家離れ施設内での喫茶休憩や食事並びに北前船、河野ならではの「体験」や買い物、北前船企画展開催に向けたスペースの整備、ガイド整備による北前船主通り一帯の散策など、地域を満喫できる「おもてなしメニュー」を提供する拠点として整備を進めます。必要な機器を含め環境を整え、離れに隣接する蔵も有効活用し、一体的に運用します。

食事については、現行の計画では、喫茶・軽食（和の場合、お茶と和菓子、洋の場合、コーヒーと洋菓子など）や、地元の食材を活用した海鮮丼や郷土料理の提供の仕方について検討していきます。

企画展の実施については、右近家に伝わる貴重品の展示など見学に加え、「食」に関するものも用意し、「河野北前御膳」（仮称）といった新たな名物料理の検討もあわせて進めます。地域の魅力ある新たな食事メニューの開発については、今後、地域の宿泊業者、飲食業者などとも協議を進め、「浜の活膳」（仮称）などテーマ性や具体的メニュー内容を協議するとともに、越前漆器や越前焼の器の使用など料理そのものの以外での他地域にない独自性についてもあわせて検討を進めていきます。

最後に、体験、土産販売については、「北前船」「河野」の特色を出せるもの、また体験はお子様も楽しめるものについて、次章でその具体的方策を示してまいります。

計画に基づく離れの管理・運営にあたって、まずインフォメーションセンターとしての機能は、河野観光協会の右近家離れへの移設によって整備します。

休憩所の管理については、右近家本宅との一体的な管理運営など安定的な運営へ望ましいと思われる体制を整備してまいります。

3. 全国への情報発信やおもてなしの充実

□事業目的・ねらい

「北前船主通り」の魅力を全国に発信することで、南越前町とその観光資源に対する観光客の認知度や、事前学習効果を高め、新たな観光客層の獲得を目指します。また来訪者に対しては、人のぬくもりが感じ取られるような「おもてなし」や、現状では十分とは言えないお子様向けメニューも整備することで、来訪者の満足度を高め、再訪をうながすことを目的とします。

- (1) 全国の北前船研究者や各寄港地の地域づくり人材が集まる「北前船の集い」（仮称）を開催

【開催案】

- 呼称 北前船の集い（仮称）
- 開催時期 平成27年秋を想定（2日間程度）
- 開催場所 右近家の館、右近家離れを中心とした北前船主通りエリア

有識者によるパネルディスカッションや講演など学術的な部分（シンポジウム）に加え、一般の参加者にもわかりやすく伝える・興味をもってもらうことを目的とします。

あわせて地域の住民にとっても、誇るべき地域の資源・財産としての「北前船」の魅力を再認識してもらい、郷土愛を醸成します。

開催にあわせて、北前船、河野の魅力を伝える「おもてなしメニュー」も準備し、北前船寄港地に関する物産展（販売）など、この機会に訪れた観光客にその良さをわかってもらおうと同時に満足度を高める受入体制を整備します。これを契機に観光客の裾野を拡げ、「北前船」「河野」ファンを開拓、拡大できるよう準備を進めます。

あわせて北前船寄港地など関係する自治体や団体との関係を密にし、連携したプロモーションなど今後の継続した取組への基盤を構築します。

※開催に向けたスケジュールやその詳細については、引き続き検討し、確定させていただきます。

□検討にあたって視察の実施（平成26年7月25日）

- 北前船寄港地フォーラム in 宮津・京都（京都府宮津市宮津会館）
 - ・各寄港地の紹介コーナーや物産販売
 - ・各地域の伝統技能等のパフォーマンス



(2) 北前船の歴史や、館・蔵などの建造物等の説明ができる観光ガイドの育成

観光では、案内をしていただくことで、知って初めてわかる価値・良さもあります。北前船と河野の魅力もまさにそうであり、来訪者に対して、人のぬくもりが感じ取られるような地元住民によるガイドによって、来訪者の満足度を高められるよう整備を進めます。同時にそれは、地域ぐるみの「おもてなし」への第一歩であると位置づけます。

【実施案】

□呼称 「河野北前船かたりべ観光ガイド」(仮称)

□観光ガイドの案内範囲は右近家周辺とし1回あたり30～40分程度とします。

□広報で、北前船に関する知識及び河野地区の食文化伝承などを一般の方から募集します。(7月26日より募集開始)

愛する河野の魅力を学びながら伝えませんか

河野北前船かたりべ観光ガイド(仮称)メンバー募集

募集人員: 20名程度
募集対象者: 南越前町在住で20歳以上の健康な方ならどなたでもOK。
募集期間: 7月26日(土)～
申込み方法: 以下の連絡先へ連絡して下さい。
その他: 河野地区の「ちょっといい話」や地元の伝統的食文化、幼いころの記憶など些細なことでも結構ですので情報提供をお願いいたします。

【連絡先】

- ・南越前町役場 産業振興課(北前船歴史空間再生プロジェクト事務局)
 〒919-0292 南越前町東大道 29-1
 ☎ 0778-47-8002 FAX 0778-47-3607
 受付時間: 午前9時～午後5時
 E-mail: sansin@townminamiechizen.lg.jp
- ・南越前町役場 河野総合事務所
 〒915-1195 南越前町河野 15-16-1
 ☎ 0778-48-2111 FAX 0778-48-2054
 受付時間: 午前9時～午後5時



□観光ガイドの登録人数目標は20人とします。

□観光ガイドの拠点(予約受付等)は右近家離れを想定します。

観光ガイドは、町ぐるみのおもてなしの一環として地元住民が望ましいと考えます。右近家館内の案内については、北前船に関する専門知識も求められるため、事業開始時点においては、「愛する河野の魅力を学びながら伝える」というスタンスで、北前船の専門知識よりもまずは、河野の町ならではの伝統文化やこだわり、地域性やその良さを伝えることを重点に北前船主通りを中心としたエリアを30～40分程度のコースで実施します。また今後のガイド事業の進捗やガイドのスキルに応じて、コースの拡大や時間の延長、北前船の専門領域にも広がっていくことも考えられます。

□検討にあたって視察の実施（平成26年7月6日）

○北前船廻船問屋森家（富山市東岩瀬）

- ・大町新川町通り（旧北国街道）では、平成18年富山市が電柱を埋設
- ・常時2名の職員が交代でガイド対応

○ボランティアガイド「岩瀬案内グループ」

- ・ガイドの整備状況、運営体制、ガイドコース・時間・案内する手法など

○銭屋五兵衛記念館・銭五の館（金沢市金石町）

- ・当時の昆布俵や酒樽等再現展示や、千両箱の重さ当てクイズコーナーなどわかりやすい体験コーナー、関連する銘菓販売



（3）「北前船主通り」の散策が楽しめるガイドマップ及びビデオ等のPR商品の開発、作成

①右近家や北前船主通りのPRビデオの作成

□イメージビデオ（PRビデオ）

右近家や北前船主通りの概略を分かりやすく短時間にまとめたビデオを制作します。四季折々の見どころを撮影し、27年秋には利用できるよう準備を進めます。

②制作したPRビデオを利用した誘客の企画・実施

制作したイメージビデオ（PRビデオ）については、離れの案内所でかたりべに

よる観光ガイドを受ける前の予備知識として視聴してもらう他、デジタルサイネージでの放映など不特定多数向けの放映や、旅行会社での販促イベントや、エキスカッション等のバス移動の際の車内での放映など、販促活動の際に活用します。

③お土産品・体験用の商品作成

現状、右近家一帯ではお土産品の買物をできる場所がなく、また「北前船主の館右近家」では、お子様向け（主に小学生を想定）のメニューは整備されていない状況です。

そこで当該地域や、北前船と関連性があり、またお子様も楽しめ、旅の思い出となるものを提供したいといったことから、以下の提案を中心に今後詳細について検討を深め、準備を進めていきます。

（ア）体験メニュー

□北前船を体感できる体験

北前船の轆轤を回していきりを上げる体験、北前船で運んだ荷の重さを再現した荷運び体験などお子様への歴史学習も兼ね、当時を再現し観光客に北前船というものを体感していただき、身近に感じていただくメニューを用意します。

□越前和紙ペーパークラフト体験（北前船）

大人から子供まで楽しめ、また河野との関連性からも南越前町河野のお土産としても最適である八幡丸をモデルとした北前船のペーパークラフトをご用意します。お土産としてのそのままでの販売と、その場での制作体験の両方を用意します。販売、制作体験箇所は、右近家離れを想定しています。



□浮き玉網掛け体験

北前船が運んだニシン漁に使われたガラスの浮き玉。北前船との関連性もあり、お土産として手頃なサイズに造られた本物のガラスの浮き玉を使って、地元漁師に引き継がれてきた網掛け技法を体験します。販売、体験箇所は、同様に右近家離れを想定しています。



□その他

船頭と記念撮影できるオブジェの制作や航海での安全祈願の伝統から絵馬への色付け体験なども北前船との関連性から検討していきます。

(イ) お土産品

南越前町オリジナル商品（ここでしか買えないものを新たに商品開発）がベストですが、次善の策として、北前船と関連のある人気商品に「南越前町・北前船」の統一ロゴを活用したラベルを貼って販売することも視野に今後商品の具体的な絞り込みを進めていきます。

□南越前町オリジナル（ここでしか買えないものを新たに開発）

- ・梅を使ったスイーツの開発
- ・真空パックのイカ飯、タコ飯
- ・昆布を使った加工品を業者に依頼し、新たにオリジナル商品を開発
- ・手拭い（右近家独特の紋様やオリジナルのお洒落なデザインなど）

□北前船と関連のある人気商品に「南越前町・北前船」の統一ロゴを活用したラベルを貼って販売

- ・越前和紙のペーパークラフト
- ・キーホルダー
- ・缶詰

□北前船関係市町の特産品や土産物を一同に集めて、展示販売

④北前船主通りの散策を楽しめるガイドマップの作成

観光客が携帯しやすいように4つ折り等にしたものをイメージしております。また前述の観光ポイントごとのQRコードを掲載し、動画による解説(ガイド)も利用できるよう連動した作りとします。子供向け、外国人向け、お年寄り向けの複数のパターンを制作します。平成27年秋完成を目指し、景観整備の進んだものは写真を、まだのものは完成予想図を掲載します。

4. 河野ーホノケ山トンネルー南条ー今庄を結ぶ観光ルートづくり

□事業目的・ねらい

南条S Aやホノケ山トンネルを活用した町内周遊型観光へ、河野、今庄、南条の3地区のそれぞれの観光スポットの連携を促し、一体的な誘客戦略を展開することで、町内での滞留時間の拡大や、宿泊客の増大をうながすことを目的とします。

(1) 北前船主通りや今庄宿など新たな観光資源をPRするポータルサイトの作成

①南越前町観光情報サイトをスマートフォン対応させます。

具体的な仕様について検証を進めます。

②サイト内に「北前船主通り」と「今庄宿」の紹介ページを作成します。

具体的な掲載内容については、関連するガイドブック、マップと連動させながら今後検証を進めます。

(2) 南条S I C、今庄I Cからの案内について、北前船の統一したイメージでの誘導サインの設置

北前船・南越前町をイメージしたロゴイラストを制作し、誘導看板や、案内板、幟旗、スタッフ用法被などで統一して活用することで、南越前町としての一体感をだし、観光客にとってもわかりやすいよう整備を進めます。

看板設置にあたっては、平成25年11月、ホノケ山トンネルが開通したことで、北陸自動車道南条S I C、今庄I Cから、国道365号、305号という河野地区への直通ルートができ、その利便性は格段に改善されました。しかし現状、このルート上には誘導看板が未整備なため、今回新たに設置することで利用者への周知をはかります。このルートに加え、従来の敦賀方面から海岸沿い、越前・河野しおかぜラインのルート、越前町側からの国道305号のルートといった観光客の動線、町内へのアプローチ（玄関口）を意識し、また既存の看板の有効活用もあわせて進めます。

(3) 旅行会社とタイアップした北前船主通り、今庄宿・妙泰寺ツアーの実施

平成26年度は、テストマーケティングとして日帰りコースを11月に2本設定します。1回につき40人程度の募集とし（バス借上げ）、新聞での募集告知によって主に中京圏からの募集とします。

2コースともに、昼食は河野地区内とし、午後は北前船関連の見学と散策をメインにすえます。午前中は今庄、南条地区でそれぞれ現在整備を進めている観光資源、

おもてなしメニューを見学、体験します。参加者からはアンケートをとり、整備された状況について効果測定を行い、お客様の満足度や課題を明らかにすることで、今後のさらなるブラッシュアップに向けたデータとして活用します。

おもてなし体制、メニューの整備にあたっては、河野観光協会、今庄観光協会、南越前町商工会と連携して進め、河野では「河野北前御膳（仮称）」という新たに地域の目玉となる食事メニュー開発にも取り組みます。並行してお客様受入の雰囲気醸成するため、お出迎え用の幟旗、法被、またテストマーケティングに関するPR用のノベルティグッズやお土産用グッズ、リーフレットもあわせて用意します。

南越前町の観光資源の旅行商品化に向けて、平成27年度については、これまでのブラッシュアップの取組の成果を行程に盛り込むとともに、南越前町の四季折々の見どころやメニューを盛り込んだ旅行社とタイアップしたツアー催行への準備を進めます。南越前町完結コースとすべきか、近隣市町と連携した広域型コースとすべきかについては、マーケットニーズや近隣市町の動向も見極めながら実施方法については確定させていきます。あわせて旅行会社、マスコミ、観光を学ぶ学生を対象とした視察ツアーについてもその効果、催行方法について検討します。

（４）南条SAでプロモーションビデオを放映するなどNEXCO中日本等との連携や、各種媒体を利用した情報発信

①PRビデオを制作し、南条SA（上下線）のデジタルサイネージで放映

南条サービスエリアやホノケ山トンネルなど南越前町の道路交通の利便性をアピールし、町内周遊型観光、滞留時間拡大を促すよう、河野、今庄、南条の南越前町全域の見どころについて、15分～20分程度のPRビデオを制作します。

河野では、右近家及び北前船主通り関連の歴史的背景の説明や、夕陽、食の魅力について、また今庄、南条で進められているおもてなしメニューなど、整備が進められている観光資源についても紹介します。（今庄では、若狭屋、京藤甚五郎家など宿場町街並み、その歴史的背景の説明、酒蔵など散策イメージ、吊るし柿、板取宿など、南条では妙泰寺や花はす公園など）

具体的な撮影箇所については、デジタルポスターや他のガイドブック、ガイドマップと連動させながら決定していきます。

②ガイドブックの作成

南越前町に関するガイドブックについても、内容を一新し、整備が進められているおもてなしメニューや観光資源など最新の情報を反映したものを制作します。

③PR用お土産袋・スクラッチカードを作成し、SA利用客に配布

PR用のお土産袋・スクラッチカードを作成し、南条SAで配布することで、北陸自動車道利用者に対し、南越前町をアピールするとともに、町内周遊型観光を促すよう実施を予定します。

IV 資料編

1. 南越前町観光マップ



2. 北前船主通りの紹介

右近家



西洋館



中村家



刀禰家

A photograph of a traditional Japanese wooden building with a tiled roof. It features a stone wall and a paved path leading to the entrance. The building is surrounded by lush greenery, and the architecture is typical of the region.

3. 計画策定委員会構成メンバー

ア 委員

団体名	役職等	氏名	年齢	備考
河野北前船研究会	会 長	右近 恵	58	
河野北前船研究会		田中 正則	59	
河野区	区 長	越知 和彦	62	
河野観光協会	事務局長	河本 正則	66	
河野観光協会		谷野 美紀子	36	
今庄観光協会	事務局長	岸梅 るみ子	56	
南越前町商工会	事務局	林 正浩	30	
南越前ダイビングパーク	代 表	佐武 祥行	29	
町内関係者		中村 久弥	44	
町内関係者		藤原 綾子	44	
町内関係者		南 清美	56	旅館、民宿
町内関係者		与力 仁美	55	旅館、民宿
町内関係者		川地 崇文	41	
町内関係者		高山 友樹	39	
町内関係者（教委事務局）	学芸員	玉村 幸一	39	
町内関係者（産業振興課）	主 事	奥谷 恵美	37	事務局兼務
町内関係者（産業振興課）	主 事	伊藤 駿（川村 博俊）	22	事務局兼務

イ アドバイザー

団体名	役職等	氏名	年齢	備考
日本建築専門学校	校 長	吉江 勝郎	65	
県立歴史博物館	副館長	山形 裕之	54	
全国北前船研究会	幹 事	平野 俊幸	52	

ほか福井県より市町振興課、観光振興課、文化振興課より担当職員が参画

ウ 事務局

団体名	役職等	氏名	備考
南越前町産業振興課	課 長	小角 譲	
南越前町河野総合事務所	所 長	森 和仁	
南越前町産業振興課	参 事	小谷 徹	
南越前町産業振興課	課長補佐	森 貴之	
南越前町産業振興課	主 事	下中 夕刈	
㈱日本旅行（日旅総研）	マネージャー	梅田 茂樹	

4. 計画策定委員会、グループワーキングの風景

【計画策定委員会風景】

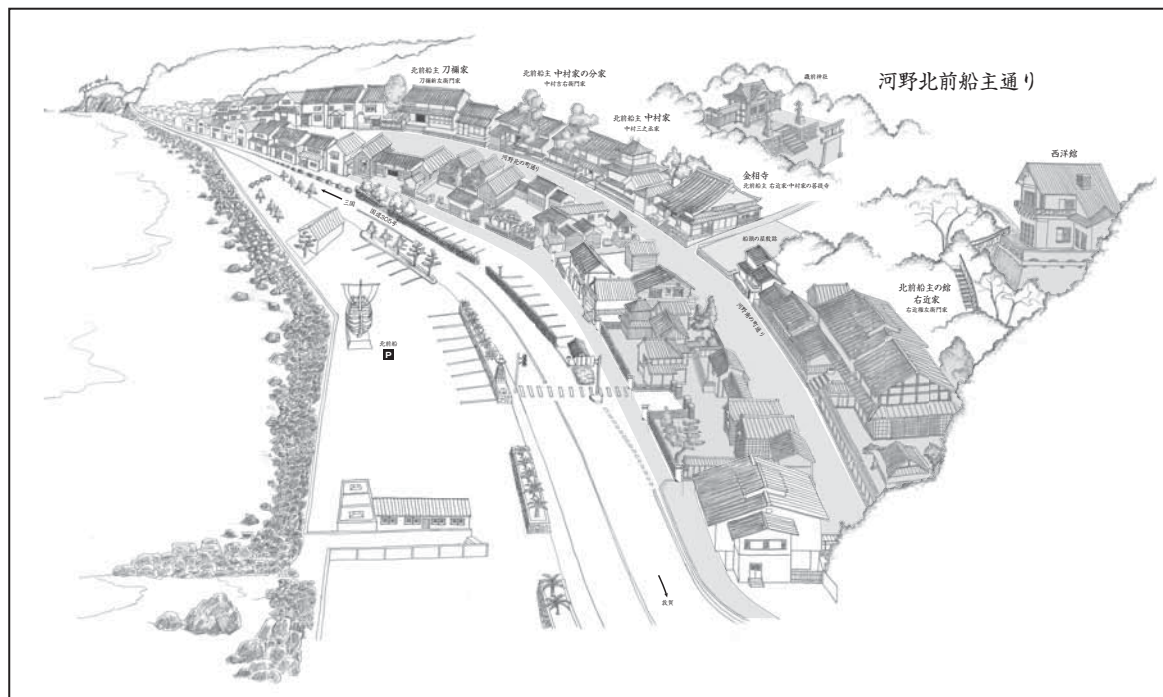


【グループワーキング風景】

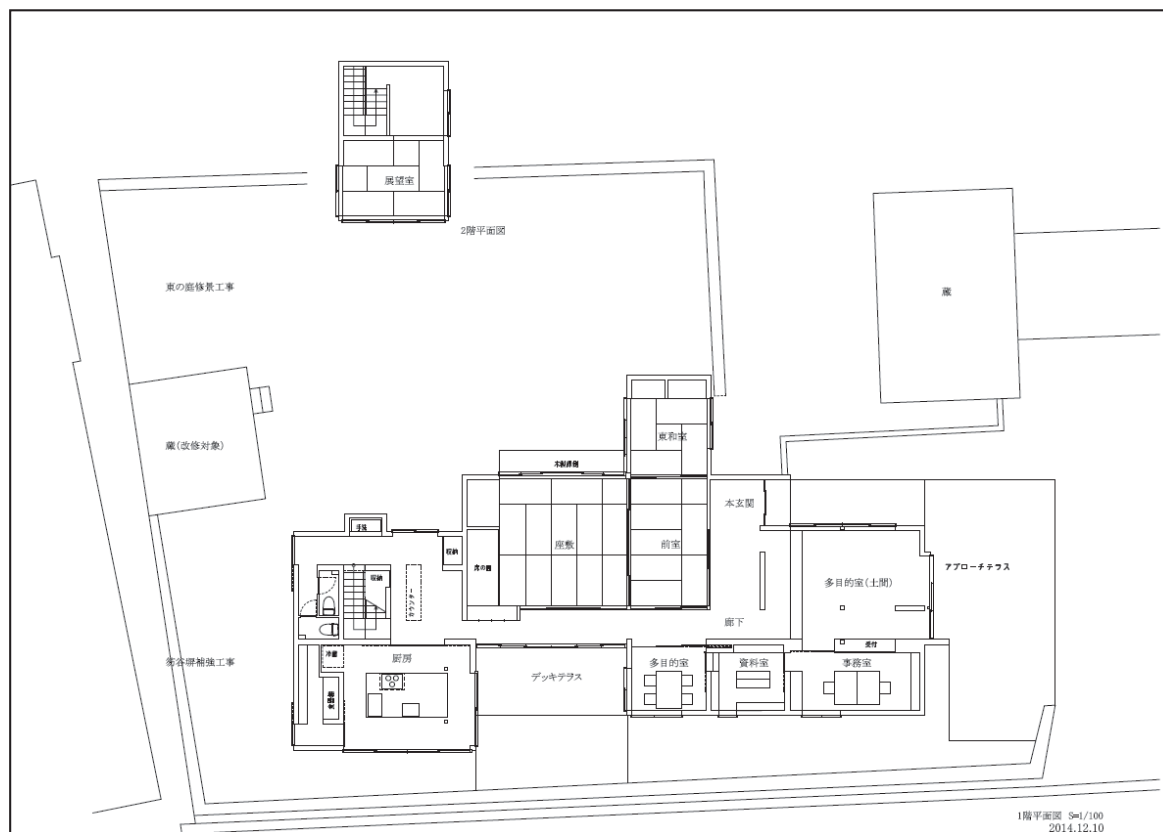


5. 完成予想図

河野北前船主通り



右近家離れ



北前船歴史空間再生プロジェクト計画策定委員会 事務局
【南越前町産業振興課 TEL 0778-47-8002 (直通)】